

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価報告書

令和元年 8 月

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書目次

1.	はじめに	2
2.	点検・評価方法	2
3.	教育委員会の活動状況	3
4.	点検・評価の内容	4
5.	学識経験者からの意見・要望等	5

教育委員会の点検及び評価について

1. はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」においては、「教育委員会の責任体制の明確化」の一つとして同法第 26 条の規定に基づき、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価をすることが義務付けられている。また、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出し、公表しなければならないとされている。その際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされている。

本報告書は、同法により、効果的な教育行政の推進を図るとともに、町民への説明責任を果たすために、平成 30 年度の豊能町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施し、報告するものである。

2. 点検・評価方法

豊能町教育委員会が執行している全ての事務・事業について、全庁的に実施している事業評価を活用し、点検・評価することを基本とし、報告書を作成した。

また、点検及び評価に当たっては、1 名の学識経験者から点検及び評価に対する意見・要望等を聴取し、その知見の活用を図るものとする。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

3. 教育委員会の活動状況

本町教育委員会は、教育長と5人の委員で構成し、学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止に関することや教育財産の管理に関すること、学校の教育課程、学習指導、生徒指導、子ども・子育て支援、生涯学習に関すること等について、管理、執行している。

本町教育委員会としては、教育委員会会議において慎重な審議を行うとともに、学校の視察や研修会への参加等により、現状の把握や課題の解決に努めるなど、教育行政の推進を図ってきたところである。

(1) 教育委員会会議の状況（平成30年度）

開催回数		付議案件	
定例会	臨時会	議案	承認
12	2	20	5

(2) 研修会への参加

- ・5月 大阪府町村教育委員会連絡協議会研修会（ホテルアウリーナ大阪）
- ・8月 大阪府町村教育委員会連絡協議会夏季研修会（島本町）
- ・10月 大阪府市町村教育委員研修会（ホテルアウリーナ大阪）
- ・11月 市町村教育委員会研究協議会（中之島公会堂）
- ・1月 大阪府町村教育委員会連絡協議会研究会（岬町）
- ・2月 ブロック別都市教育委員研修会（箕面市役所）

(3) 主催事業等への参加

- ・町立保育所、幼稚園、認定こども園、小・中学校の視察
（保育所1所、幼稚園1園、認定こども園1園、小学校4校、中学校2校）
- ・豊能町管理職等夏季研修会への参加
- ・入学式、卒業式、運動会、体育祭等学校行事への出席
- ・成人式等町行事への出席 等

(4) 総合教育会議

- ・平成30年度は、総合教育会議は開催されていない。

(5) 今後の活動

平成30年度の諸活動の点検・評価を踏まえ、令和元年度の豊能町教育指針において、「教育力日本一」を目指し、以下の重点目標を掲げて取り組みます。

1. 教育基本法の趣旨を踏まえ、知・徳・体の調和がとれた教育の推進
2. 0歳から15歳までの保幼小中一貫教育の推進
3. 豊能町学力向上プランの推進（3年次）
4. いじめ不登校等の解消のための環境整備及び体罰禁止の徹底と安心安全な学習環境づくりの推進
5. 新教育課程の研究推進、「特別の教科 道徳」の実践及び外国語（英語）科等の研究推進、プログラミング教育の研究と推進
6. 子どもの育ちを支える環境整備及び子育て施策の推進
7. 郷土「とよの」を誇りに思える児童生徒の育成
8. 読書活動充実の推進
9. 地域人材の活用でより質の高い教育力向上の推進
10. 豊能町の文化・歴史・風土を生かした体験活動の推進
11. 働き方改革を意識した組織運営の推進

教育委員会 構成

平成30年3月現在

	氏 名	任 期
教 育 長	新谷 芳宏	平成28年10月18日～平成33年3月31日 ※平成31年3月5日付で退職
委 員 (教育長職務代理者)	宮崎 純光	平成27年10月23日～平成31年10月22日
委 員	太田 佳子	平成9年10月23日～平成33年10月22日
委 員	岸本 恵子	平成24年10月23日～平成32年10月22日
委 員	川村 新	平成23年3月26日～平成34年10月22日
委 員	坂口 敏子	平成29年12月26日～平成33年12月25日

4. 点検・評価の内容

(別冊) 平成30年度 事業評価・主要施策成果報告書

- (1) 教育総務課関係 (平成30年度 事業評価・主施策成果報告書 p167～p189 参照)
- (2) 教育支援課関係 (平成30年度 事業評価・主施策成果報告書 p190～p193 参照)
- (3) 子ども育成課 (平成30年度 事業評価・主施策成果報告書 p194～p199 参照)
- (4) 生涯学習課関係 (平成30年度 事業評価・主施策成果報告書 p200～p212 参照)

5. 学識経験者からの意見・要望等

点検及び評価を行うにあたって、学識経験者として下記の者から聞き取りや意見交換をもとに点検・評価に対する意見を得た。

兵庫教育大学 大学院学校教育研究科 准教授 鈴木 正敏

このたび、豊能町教育委員会（以下、「教育委員会」という。）より、地方教育行政の組織および運営に関する法律に基づき教育委員会が行う点検および評価について、外部有識者として意見を提示することの依頼を受けた。これを受けて、評価報告書（案）等の資料を検討し、事務局の各事業担当者への聴き取りと意見交換を行った。

その結果、教育委員会は平成 30 年度において、教育に関する事業を適切かつ公正に管理・執行し、その改善に務めていることを窺うことができた。以下、項目を立てて詳細の意見を述べる。

(1) 教育委員会及び事務局の活動について

教育委員会としては、教育委員会会議について、定例会などを定期的に開催し、慎重な審議を行っている。また各学校園所への視察や研修会・学校行事ならびに成人式等の町行事への参加も着実に行われている。

昨年度に引き続き、今年度も 5 名の教育委員によりさまざまな課題に対応している。また、研修会には積極的に参加しており、広い知見をもとに教育に関する審議を行おうとされていることがわかる。

さらに、平成 30 年度の点検・評価を踏まえて豊能町教育指針に「教育力日本一」を目指すことが加えられ、知・徳・体の調和がとれた教育の推進や、プログラミング教育の研究と推進、読書活動の充実など、新たな試みが進められることとなっている。今後、こうした努力を踏まえ、より一層先進的な教育行政の実施に努められたい。

(2) 学校教育に関する内容について

・教育総務課主担事業について

これまで懸案であった学校園の再配置については、保護者説明会を 26 回、住民に対しての説明会を 4 回開催するなど、保護者・住民への理解を促進するために尽力されてきたことがわかる。しかし、町行政の環境の変化などによって、計画の中断を余儀なくされたことで、改革の活動が一時期停滞してしまったことは否めない。特に、再配置の中断によるメリット・デメリットの分析などをもとに、今後新たな方針を策定するとともに、これまでと変わらずより良い学校環境の整備に取り組まれない。

就学援助に関しては、必要な家庭へ滞りなく援助が行われており、適切な取り組みがなされていると思われる。また、援助の時期については、今後も改善の方向を探ってい

ただくとともに、子どもたちが安心して学校に通うことができるよう、継続した援助を行っていただきたい。

平成 30 年 6 月に発生した地震の被害の状況から、ブロック塀などの危険な構造物について、撤去ならびにフェンスへの改修が行われている。急な災害によって危険回避の必要性が認識され、早急に改修する必要性があったが、迅速な対応がなされたことは評価されるべきである。同じく、9 月の台風 21 号による被害についても、かなりの損傷であったにもかかわらず、適切に修理復旧が行われた。猛暑対策のための空調整備なども含めて、ハード面での必要性を十分に鑑み、対応がなされているといえよう。

教育面においては、外国語指導助手の増員による英語教育の充実や、ICT 機器の充実による教育環境の整備がなされている。新しい学習指導要領で求められている資質能力の育成に対応する形で、こうした整備・充実が行われたことは評価に値する。

その他、これまで継続して改善を図ってきた学校給食や、社会で求められている働き方改革についても、具体的な取り組みがなされており、一層の進展が見込まれる。

今後の課題としては、中断した学校園の再配置の問題について、方針のあり方を十分に住民全体に説明するとともに、長期的な視野に立って、今一度検討することが必要であろう。これからの具体的な取り組みに期待したい。

・教育支援課主担事業について

教育支援課の基本施策としては、総合計画に挙げられた「子どもの確かな力を育む教育の充実」を達成するため、事業として教員研修の充実や学校評価の充実を通して、新しい学習指導要領に対応しながら、子どもたちの学力や体力を向上させ、安心して育つことができる環境を整えることに邁進されている。

具体的には、これまでも取り組んできた特色ある学校づくりの推進や、研修を町独自で実施するなど、豊能町らしい学校とそのための研修が充実してきたことが挙げられる。「本のソムリエ」の取り組みによる読書活動の推進や、公民館の「中学生まなび舎教室」の取り組みに代表されるような学力向上への努力など、ここでも町独自の取り組みが見られる。

基本施策のうち、人権・地域教育充実事業については、地域との協働による学校教育・保育や、人権教育を通して一人ひとりを大切にした教育を目指している。地域性を活かして、地域住民参加による学校支援活動や、安全安心を保證するためのスクールガード・リーダーの委託など、地域に密着して一人ひとりを大切にしようとする姿勢が具体化してきている。また、支援児童・生徒に対する巡回相談など、一人ひとりを支援する体制も整えられているといえる。

また、漢字検定・実用英語技能検定の受験に対する助成や、国語力向上推進事業による指導員の配置といった、児童生徒に対する直接的な支援とともに、授業スタンダードの作成・拡充や、教員の研修を含めた指導力の向上に努められている。こうした取り組みが、豊能町の子どもたちの学力向上に資するものであると考えられる。

今後も、乳幼児期から小学校、中学校にあがる子どもたちへの学習面・情緒面・社会

面に対する支援を継続して実施していただきたい。

(3) 子育て支援に関する内容について

子育て支援に関する内容については、子ども支援室を中心に安心して子どもを産み育てることができる環境づくりに努力されている。

幼稚園・保育所・こども園，そして子育て支援センターが中心となって，育児に関する相談を受け付けたり，「育児の日」の取り組みを通して，子育て世代だけでなく，中高年の世代との交流を通して，孤立せずに子どもを育てることができるように支援がなされている。また，ファミリーサポートセンター運営事業や，子育て世代包括支援センターを新たに設置し，母子保健事業と連携した家庭訪問型早期子育て支援事業を実施し，地域全体で子育て支援が受けられるようになっている。

また，巡回相談を行うことで，特別支援を必要とする子どもたちに対する教育・保育の充実を図ったり，養育支援訪問をすることで，虐待防止への取り組みが行われている。さらに，放課後児童育成クラブの地域連携充実事業を通して，学校や学童保育だけではなく，地域で放課後の過ごし方を充実させるような取り組みがなされている。

こうした取り組みを行うことで，豊能町が安心して子どもを育てられる環境が整えられていると考えられる。今後の課題としては，子ども一人ひとりのニーズを把握し，適切な子育てならびに教育・保育が可能となるよう，一層の努力をしていただくことである。子どもが生まれる前から就学，卒業後に至るまで，切れ目のない支援を行うことが可能となれば，子育てしたい町としての豊能町の魅力がさらに増すと考えられる。

(4) 生涯学習に関する内容について

生涯学習に関する内容については，地域で学ぶ生涯学習環境の充実を目指し，さまざまな事業が行われている。具体的には，「ウグイス大学」の開催や各種スポーツ関連事業，文化的事業などが行われており，昨年度に引き続いて活発な参加・交流がなされている。今後も，参加者の増加や積極的な参画を促し，生涯学習のより一層の充実を目指していただきたい。

青少年健全育成事業については，「夏休みこども特集」による様々な子ども向け講座や，自然とのふれあいを目的とした「森と遊ぼう！！」の開催，豊能町連合こども会主催のキャンプやフロアカーリングなどを通して子ども会同士の交流等が図られている。また，「土曜お楽しみ講座」や，PTA 文化交流会などを通して，ミュージカルなどの成果を披露するとともに，一般町民との交流も図られている。

生涯スポーツ・レクリエーション活動の推進に関しては，学校体育施設の開放など施設利用や管理が適切に行われている。その上で，サイクリング教室やトレッキング教室の開催，町民ゴルフ大会やとよのスポーツフェスティバル，フロアカーリング大会などが行われている。年々，こうした催しが工夫されていることは評価されるべきである。

文化的行事についても，公民館活動グループによる文化展や，家族と楽しむ落語の世界，米朝一門ユーベル寄席，近年ブームになっている日本刀剣に関する NHK の公開講

演会，京フィルによるクラシックコンサートなど，様々なイベントが開催されている。こうした文化的行事も，住民の豊かな生活に資するものであると考えられる。

しかしながら，中央公民館，図書館，郷土資料館，ならびにユーベルホールについては，施設の老朽化が恒常的な課題となっており，努力と工夫によって適切に維持管理されているものの，構造的に修繕などの継続的なメンテナンスに力が削がれる状態になっている。今後は，長期的に視野に立って運営管理ならびに施設のあり方について考える必要にせまられると思われる。

以上，検討した結果，豊能町教育委員会の事業に関しては，行政的な環境の変化や施設の老朽化などの構造的な課題がありつつも，適正かつ効果的に行われていると評価したい。特に，学校の再配置に関しては，大きく方針が転換したところであり，教育委員会のみならず，部署を超えた連携協力がこれまで以上に必要となってきた。その中で，どのようなビジョンをもって教育環境や子育て環境の充実にあたるかを，今一度深く考えていただきたい。今後も，豊能町の子どもたちの健全な育成と，住民全体の生涯にわたる学びの充実に努めていただき，真摯に教育委員会の責務を果たしていただきたいと考える。